

醸造関連遺産(旧野田商誘銀行)

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第025号
名称(型式等)	株式会社千秋社社屋(旧野田商誘銀行)
所在地	千葉県野田市野田 339
設立(竣工)年	大正 15(1926)年

選定理由

この建物は野田商誘銀行として建設され、大正 15 (1926) 年 6 月に完成しました。野田商誘銀行の「商誘」の名は、銀行創立委員のほとんどが野田醤油醸造組合の組合員であったため、「醤油」の語呂にちなんで選ばれました。

建物の外観は、1920 年代に流行したアール・デコ様式(当時ヨーロッパ及びアメリカ合衆国のニューヨークを中心に流行、発展した装飾の一傾向。直線や円を使用した幾何学模様の特徴)を採用していて、平らな屋根を持つ 2 階建ての鉄筋コンクリート構造です。表面仕上げ材は、クリーム色の石とグレーのモルタル塗りであり、正面である西面は 3 つの部分に分けられ、左右対象の構成を示しています。1 階では、入口は中央の位置を占め、両側に窓が一つずつあり、2 階では、下の開口部に合わせて 3 つの窓が設けられています。窓をはじめ全体的なプロポーションはジョージアン風(イギリスのジョージ 1 世から 4 世までの時代(1714~1830 年)の建築・工芸様式)のヴィラ建築を思い起こさせます。

現在では、キッコーマン系列の株式会社千秋社の建物となっています。1 階の部分は現在主に事務所として利用され、内部設備と間仕切りは大きく改造されています。建物の東南隅には階段ホールがあり、当初の階段も残っています。2 階は全般に当初の姿をよく残しており、特に現在会議室として利用されている西側の部屋 2 室には、当初の漆喰天井と木製のドア・ケース等の優れた技術を確認することができます。建物の保存状態は良く、部分的に改造があるものの、外観と 2 階は当初の姿をよく伝えています。

日本における 1920 年代のアール・デコ建築の遺産であるとともに、野田市の特長的な産業遺産としてその歴史的な価値は極めて高くなっています。



写真 1 : 千秋社社屋(野田商誘銀行)①



写真 2 : 千秋社社屋(野田商誘銀行)②

参考資料 : 千葉県の産業・交通遺跡—千葉県産業・交通遺跡実態調査報告書 千葉県立現代産業科学館(1998)